

母校の話題

農業科学科

今年の農業科学科の進路実績は、帯広畜産大学や鳥取大学の国立大学2名を含む8名が大学、短大2名、農業大学校5名、専門学校10名が合格しました。また企業に12名が採用となりました。今年度は指導農業士による講演会をはじめ、各事業を新型コロナウィルス感染症前の状態に戻しながら行っていました。

農業クラブ活動では、農業クラブ全国大会熊本大会にプロジェクト発表で水稲班、農業鑑定競技農業コースに2名が出場し、農業コースに出場した2名が優秀賞入賞を果たしました。農業クラブ活動以外にも、3年生が中心となり生徒それぞれが様々な場面で活躍しています。

次年度も引き続き地域課題に向けた取り組みを展開していき、農業教育のより一層の充実を図りたいと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。

畜産科学科

日頃より、同窓会の皆様方には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

今年度は、感染症が緩和となり従来の教育活動に戻りつつあります。生徒は実習等を通して、家畜の飼養管理を行いその中で連帯感

食品科学科

や責任感を育むことができました。また、昨年11月には牛舎において「畜産GAP」認証を受け、安全で安心な食糧生産について学習する機会を作ることができ大変喜ばしく思っております。

卒業生は、就職・進学ともに畜産関連を中心に内定・合格を頂くことができいております。これもひとえに空農、岩農同窓生の皆様方のご支援、ご協力があったからこそと考えております。今後も畜産科学科を宜しくお願ひ致します。

食品製造実習、授業における品質管理、衛生面についての教育実践が定着し、安全・安心な実習製品を生産が継続されるなかで、昨年度からHACCPが義務化となり、継続して生徒たちに安全教育の指導を行っております。コロナ禍から通常の日々を過ごすようになり、外部の行事も元の形で運営できるようになってきました。

食品科学科自慢の製品は、グリーンフエア、食彩フエア、東京食彩フエア等において販売し、様々な方法で本校のPR活動も実施することができました。ありがとうございました。また、農業クラブ活動では、各専攻班がしっかりと課題解決学習に取り組むことができ、農食地域交流専攻班、肉製品製造専攻班が校内代表となりました。また、10月にノルウェーの古都トロンハイムで行われたWorld Cheese Awards 2023への出場権を得た、牛乳・乳製品製造専攻班のチーズ「フイバスの瞳」を出品。入賞は逃しましたが、世界のチーズ大会へ挑戦

生活科学科

することができました。社会がコロナ禍から、急激に通常の状態になる中、生徒たちが熱心に活動し、世界に挑戦する農業教育を地域の教育力によって行うことにより、生徒たちが大きく成長することができています。

今年度は、行動制限もなく計画どおり教育活動を実施することができ、目標を達成することが出来ました。36年ぶりに北海道で開催されたインターハイでは、日頃の練習の成果から予定通りにプラントターを各会場に設置することができました。これも関係各所の皆様のご尽力による賜です。誠にありがとうございました。次年度は「花あるあるプロジェクト」や「プラチナ触媒の切り花流通に係わるプロジェクト」「花育活動」など経年活動をより発展させます。これからも、生活科学科では、自ら学び、自ら解決へ導くことができる学習を進めてまいります。今後も多くの皆様のお力添えを賜りながら、次代を担う人間形成のための学習活動を展開してまいります。

農業土木工学科

16年目に突入した教育支援パートナーシップ事業をはじめ、空知建設業協会の皆様との連携を通して、農業土木の現場や最新技術について学ぶ貴重な時間をいただきました。専攻班活動においても地域連携を欠かすことなく、活発

環境造園科

に活動を展開しており、昨年度まで採択されていた専門高校フューチャープロジェクトの成果を発表したSustainable Brand国際会議2023 in 東京丸の内 Student Ambassador 全国大会や SDGs Quest みらい甲子園北海道大会において最優秀賞受賞、今年度も各種コンテストにおいて全国大会への出場を果たしています。

進路では、9割におよぶ生徒が建設・土木・農業など関連産業への進路を決めました。卒業生には高校で身に付けた知識や技術を生かし、地域産業に貢献することを期待しています。

今年度も環境造園科の特色である多くの資格取得や造園関連の大会の活躍を紹介いたします。

- 技能五輪北海道大会（本校会場）第1位：辻 志明（令和4年度卒業生）、第2位：山田拓海（2年生）。技能五輪全国大会二人制に出場（愛知県）
- 「花フェスタ札幌2023 ガーデニング甲子園」従来型部門で2年生（22名：男子11名、女子11名）が金賞（北海道知事賞）、コンバクト型部門で3年生の園芸交流班参加
- 造園技能検定（実技・学科）を本校会場（2年目）で行えるようになりました。
- 1年生（3級12名取得）、2年生（3級17名取得、2級4名取得）、3年生（3級23名取得、2級1名3級取得率66・7％）
- 2級造園施工管理技士補合格者

森林科学科

- 10名（32名中）合格率31・3％
- 測量士補試験合格者1名（3年生：杉中 陸）
- 「計算技術検定3級」と「トレース検定3級」に1年生全員合格
- ものづくりマイスター実技講習会：7月（技能検実技講習会：受験者対象）2回、11月（技能検定2級実技講習会：1年生対象）4回、1月（延段、石組み講習会：2年生対象）4回
- 「アグリマイスター顕彰制度」に24名（3年生）が申請（シルバ16名、ゴールド4名、プラチナ4名）
- 中央職業能力開発協会会長賞受賞（11月30日東京明治記念館於）

コロナ禍では制限が多かった視察研修やインターンシップ実習、林業就業セミナーなど、今年度は幅広い活動が可能となりました。4年ぶりに実施できた「食彩フエア」や新たに「さとらんどアグリフェスティバル」などで、木育ブーイスを設け、木育や森林について多くの人に興味を持ってもらうことができました。さらに、「北海道植樹祭」や「道民森づくりの集い」などでも生徒がスタッフとして活躍しました。このような交流行事は生徒にとって、大きな成長の機会ですが、それが叶うのも、多くの皆様のご協力やご支援があればこそです。その期待に応えるべく、今後も将来の林業を支える人材の育成に励んで参ります。

ご挨拶

令和六年の新春を迎えて



同窓会会長

瀬能 昇

空農・岩農同窓生の皆様、うな活動に戻るのはいしばらく遅くなりましたが令和六年の新春をご家族お揃いで迎えられたことお慶び申し上げます。

平素から同窓会の皆様には、同窓会の緒事業や、母校の教育活動へのご支援とご協力を頂き、深く感謝とお礼を申し上げます。

ようやくコロナウィルスも五類に移行しましたが、同窓会活動は低調で中々従来のよ

て発表しそれぞれの思いを提

れます。

言していました。その中で以前から取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）を、雪やもみ殻を循環利用し周年栽培を目指す試みを更に精度を高めて発表し、全国甲子園まで駒を進めています。今SDGsは多岐に渡り世界的にも大きな課題になっておりま

すので更なる研鑽を望みます。毎年開催されている札幌の花フェスタでは、昨年に続き三度目の大賞に輝きました。テーマは「小人の家と素敵な庭」とし、花の色や丈のバランスを考え、秘密基地のような空間にしたとのことでした。

定期総会と七月にはビールパーティーを開催していただき一般市民の皆様も駆けつけていただいで大変盛り上がりしました。

「グローバルGAP」の十品目認証は数年前に取得され定着していますが、今回は畜産分野での国内規格「JGAP」を目指して審査を受けていま

す。各支部の活動はこの三年間ほとんどありませんでしたが東京支部は続けて開催されており、今回栗沢支部が支部の

卒業予定生徒の最終目的であります進路決定状況も順調に推移していると聞き及んでおります。

同窓会員の動向につきましては、別掲の通り多くの方々

教職員、同窓会の皆様が今後とも一層ご健勝でありますようお祈り申し上げます。

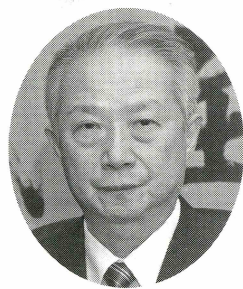


令和5年お悔やみ報告

[事務局に連絡のあった方のみ掲載・敬称略]

逝去月日	氏 名	卒業年・学科	逝去月日	氏 名	卒業年・学科
令和5年 1月3日	村 山 欽 一	昭和29年畜産科	令和5年 6月9日	齊 藤 宗 敏	昭和43年農業科
1月3日	下 昇 一	昭和48年畜産科	6月19日	古 谷 清	昭和28年農業科
1月4日	池 端 信 雄	昭和24年林業科	6月22日	館 野 康 英	昭和22年林業科
1月8日	駒 谷 作 江	昭和41年農業科	6月29日	館 岡 惇 悦	昭和22年畜産科
1月10日	池 上 洋 一	昭和31年農業科	6月30日	中 榮 春 夫	昭和36年林業科
1月11日	齊 藤 信 夫	昭和34年農業科	7月13日	森 田 章 一	昭和40年農業科
1月12日	桑 島 剛	昭和26年農業科	7月14日	二 瓶 博 勝	昭和37年畜産科
1月25日	奥 村 秀 雄	昭和37年定時農業科	7月15日	山 崎 健 市	昭和63年農業科
1月28日	金 子 勝 壽	昭和37年農業科	7月22日	朝 倉 邦 和	昭和48年農業科
1月29日	谷 一 男	昭和17年農業科	8月9日	杉 本 守	昭和29年農業科
2月6日	今 莊 義 文	昭和24年林業科	8月10日	寺 西 勲	昭和33年農業科
2月9日	酒 井 崇 幸	昭和40年農業土木科	8月13日	高 橋 道 博	昭和18年農業科
2月11日	小松田 正	昭和22年林業科	8月18日	長 田 博	昭和30年農業科
2月12日	秋 山 寛	昭和26年農業科	8月25日	齋 藤 孝 雄	昭和33年農業土木科
2月18日	中 嶋 寿 幸	昭和47年農業科	8月29日	佐々木 英 彰	昭和58年農業科
2月25日	渡 邊 洋 一	昭和48年定時農業科	9月1日	千 葉 康 憲	昭和49年農業科
2月27日	江 川 忠 利	昭和29年農業科	9月19日	野 村 敏 一	昭和43年農業科
3月13日	藤 井 忠 一	昭和43年農業科	9月25日	清 水 勉	昭和20年畜産科
3月16日	河 野 昭 憲	昭和49年農業科	9月30日	澤 田 守	昭和39年農業科
3月16日	羽 根 彰	昭和30年林業科	10月1日	橋 本 典 雄	昭和21年林業科
3月16日	泉 重 雄	昭和24年農業土木科	10月2日	森 本 董 也	昭和22年農業科
3月18日	土 田 昭 二	昭和20年農業科	10月11日	工 藤 昌 博	昭和55年畜産科
3月20日	澤 田 周 一	昭和25年林業科	10月12日	酒 田 敏 孝	昭和15年農業科
3月23日	古 石 捷 彦	昭和41年農業科	10月16日	渡 邊 勝 郎	昭和43年農業科
4月3日	大 橋 一 男	昭和36年定時農業科	10月16日	野 康 晴	昭和46年畜産科
4月5日	木 原 武	平成3年畜産科	10月18日	岡 村 武 夫	昭和35年農業科
4月11日	井 元 玉 男	昭和25年林業科	10月23日	山 田 圀 雄	昭和37年農業土木科
5月5日	佐 藤 清 晴	昭和40年林業科	10月25日	川 原 敬 治	昭和16年農業科
5月7日	笠 井 清 美	昭和49年林業科	10月26日	秋 田 豊	昭和20年畜産科
5月13日	東 岡 正 宏	昭和28年畜産科	11月7日	横 野 一二三	昭和21年女子家庭科
5月15日	門 脇 勝	昭和26年農業科	11月14日	寺 島 巧	昭和48年農業科
5月17日	荒 井 裕 至	昭和51年農業土木科	11月15日	坂 元 孝 男	昭和27年農業科
5月18日	後 藤 良 忠	昭和32年農業土木科	12月3日	萩 澤 達 司	昭和35年農業科
5月25日	平 野 秀 幸	昭和37年定時農業科	12月6日	福 岡 修	昭和40年林業科
5月29日	木 村 弘	昭和15年農業科	12月12日	浅 野 巍	昭和26年農業科
5月29日	石 尾 秀 逸	昭和45年定時農業科	12月12日	盛 田 清	昭和43年農業土木科
5月29日	山 口 征 記	昭和31年畜産科	12月26日	黒 田 洋 一	昭和26年農業科
6月1日	橋 本 武 夫	昭和26年畜産科	12月29日	前 田 知 己	昭和55年農業科
6月7日	横 山 修 一	昭和39年農業科	12月31日	足 立 敏 男	昭和43年畜産科

ご挨拶



北海道岩見沢農業高等学校校長

野村博之

令和五年度の「同窓会通信」第四十号の発行に当たり、空農・岩農同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育方針及び教育活動にご理解・ご協力をいただくとともに、母校の発展のために多大なるご支援とご協力をいただいております。ことを厚くお礼申し上げます。

令和五年度は、入学生が七学科で併せて二百十一名、総生徒数六百三十九名でスタートをしました。入学式後もなく自成一派の入寮式を行い、農業科学、畜産科学、食品科学、

イルスに関する感染症が五類に移行したことを受けて、学校祭等の生徒会や農業クラブ、部活等も制限なく活動ができるようになりました。その中でも行事の内容によつては、校内放送や校内ネットワークを活用するなどコロナ禍で得られた部分も取り入れた工夫もみられました。しかし、インフルエンザによる学級閉鎖が十一月に続いたことから、新型コロナウイルスで教訓となった感染症への予防について再認識しました。

全校集会も体育館で全生徒が集合してできるようになりました。それでも校歌は、放送で聴くだけの日常が続いています。昨年の卒業生は、三年間校歌を歌うことなく学び舎から旅立っていききました。歌い繋いできた伝統ある校歌をこのような形で途絶えるのはとても残念な事です。校歌を全校生徒で声高らかに歌う



7月7日 栗沢支部ビールパーティー



11月5日 東京支部総会